株式会社 日立製作所

http://www.hitachi.co.ip/environment/vision/index.html



《将来に向けた取組方針》

日立は環境負荷低減に対するグローバルな要請を踏まえた経営戦略として、2016年9月に環境長期日標「日立環境イノベーション2050」 を策定しました。2030年・2050年を見据え、「低炭素社会」・「高度循環社会」・「自然共生社会」の実現をめざします。

白然共生社会においては、「白然資本へのインパクトの最小化」という日標を設定し、日立の事業が白然資本に与えるインパクトを「負の インパクト」と「正のインパクト」に分類し、「負のインパクト」の低減と「正のインパクト」の増大に取組みます。

1. 環境長期日標 「日立環境イノベーション 2050」





白然共生社会 インパクト最小化の概略図

2. 自然資本へのインパクト最小化に向けた取り組み

「負のインパクト」を減らすために、製品・サービ スの省エネルギー性向上、ファクトリーにおける 効率化、資源の有効活用や化学物質削減といった 環境負荷を低減する活動をより一層推進します。

また、「正のインパクト」を増やす活動として、森 林保全などの社会貢献活動や、生態系の保全に直 接貢献する事業活動を推進します。

〈生態系保全活動事例〉

海外事業所における植樹活動 (日立製作所 システム&サービスビジネス)

日立コンピュータープロダクツ (アメリカ) では、 社内有志の環境ボランティアで植樹活動を行っ ています。2018年 は果樹苗木400本

を敷地内に植樹し、 これまでに植樹した 面積は約15エーカー (約6万㎡) となりま した。

敷地内の植樹エリアと野生の花々

牛態毒性 その他 4% 5% 自然共生社会 低炭素社会 での取り組み での取り組み 都市 気候変動 大気汚染 19% 高度循環社会 での取り組み

自然資本への負のインパクト (2018年) (LIMF2日本版被害質定影響評価手法により質出)

水源地保全の森林整備活動 (日立製作所 水・環境ビジネスユニット)

安全で高品質な水を届けることを目的に、東

京都の水道水源林 のうち山梨県甲州 市の3.19haを担 当し、この森を「き のぽん水源の森上 と名づけ、森づく り活動に取り組ん でいます。



森づくり活動に参加した従業員